

小学校教諭による学習環境の捉え方 に関する一考察

～幼稚園教諭経験の有無に着目して～

人間科学部
子ども教育学科
助手

井上 佳奈



研究シーズの紹介

研究の意義として近年、文部科学省(2015)は、幼児期の学びと児童期の学びの連続性が重要と示しており、小学校教育において図画工作(以下図工)は、現行の学習指導要領の内容の取扱いに「学習活動や表現方法などに幅をもたせるようにする」とあり、教師が学習環境を構成する裁量が大きい(宇田、2011)という教科の特徴がある。この特徴は保育所・幼稚園・認定こども園における幼児教育では、子どもが保育

の主体であり環境を通して保育をすることが根底としてあり、保育者が行う環境構成には裁量が大きいという特徴との共通性がある。

このことから小学校図画工作の授業に着目することで幼児期の学びと児童期の学びの連続性を授業で実践するための一助を見出すことが出来るのではないだろうか。

教師へのインタビュー

- 【研究設問①】教師は授業中の学習環境をどのように捉えているのか
- 【研究設問②】教師はどのような学習環境が必要だと考えているのか

(1)調査期間と調査協力者:2016年6月～10月
<表1 調査協力者の属性について>

教師	小学校	学年/ 児童数	経験年数 (幼稚園教諭経験の有無)
教師A	R小学校	1年生/ 30人	24年目 (公立幼稚園教諭経験4年間)
教師B	T小学校	1年生/ 26人	13年目 (無し)
教師C	T小学校	1年生/ 25人	4年目 (無し)

(2)データ収集方法

<表2 データ収集の手順>

1	消極的な参与観察(柴山、2006)1回目(90分)
2	教師への半構造化インタビュー1回(約1時間) ビデオ再生刺激法(小田ら、2007)を援用
3	消極的な参与観察2回目(90分)
4	消極的な参与観察3回目(90分)

倫理的配慮

<表3 インタビューの質問項目>

質問項目	ビデオの場面
①図工の授業中に心掛けていることはありますか	児童が教材を選択・使用している場面
②図工をする環境でこんな場所があったらいいなというところがありますか	児童が場所を移動して作品を作っている場面

(3)結果と考察

・質問項目①図工の授業中に心掛けていることはありますかについて
教師は図工の授業において、児童に図工を好きになってほしいという思いを持ちながら児童の多様な姿を引き出し、児童の主体的な活動を行うことを念頭において授業を行っていることが推察された。

・質問項目②図工をする環境でこんな場所があったらいいなというところがありますかについて
この質問項目では場所と学習環境のなかでも物的環境につながることを尋ねているが、教師の語りには物的環境の理解だけの語りではなく、児童の姿を理解することや児童の姿を実際に語りながら物的環境について理解していることを語っていた。

期待される活用シーン

教師・保育者が活用する例

- 一人ひとりに応じた学習・保育環境を構成する為にどのような心掛けが必要なのかを知りたい



子どもが主体的に「学ぶ・遊ぶ」為には何が必要なのか、念頭に置いて環境構成を考える

環境構成の計画を立てた後、実際に実践してみる際に子どもの様子をみながら環境を再構成する

→子どもの主体的な姿を中心に

- クラスの環境構成を見直したいが、どこから検討していくべきか悩んでいる



目に見える物的環境をきっかけとして、日頃その環境を児童がどのように使用しているかを観察する



子どもの学ぶ・遊ぶ様子を観察・記録する

その他の研究テーマ

フィンランドの基礎学校教育における教師の主体性に関する研究